科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：身のまわりの生活から探求する文化人類学入門 ILAS Seminar :Introduction to Everyday Anthropology			担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 准教授　酒井　朋子		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	9 (9) 人	配当学年	主として１回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	人文科学研究所本館　セミナー室２ (本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	文化人類学 / 日常生活 / 身体 / 空間 / きたない・きれい						

[授業の概要・目的]

身近な日常生活における、身体やモノや空間にかかわる営みについて考える。また、自分自身の日常生活がどのように形作られ、いかなる社会的な力がそこにはたらいているのかを批判的にみる目を養う。

「汚穢」「乱れ」「おぞましい」などをキーワードとする学術エッセイ集を最初の手がかりとし、参考文献の読み方、まとめ方、探し方の基礎を学ぶ。

その後、自分自身と共同生活者の身体と生活空間をケアする作業として、誰が、具体的に何を行い、どのくらいの時間と手間をかけているのか、それらは何を目的とした作業なのかを記録し分析すること等を通じ、日常を構成する物質的な側面を意識的に見つめてみる。身の回りの場所や人についての入門的な調査（聞き取り・観察）もまじえながら、人類学的な研究手法を実践的に学ぶ。

授業の最後には各自が生活を題材とした学術エッセイ（＝期末レポート）を仕上げ提出・共有する。

[到達目標]

１）文化・社会人類学の基礎的なアプローチを理解し、テキストの内容を正確に要約できるようになる。
３）身近で具体的なものの細かな部分に注意を払い、わかりやすく記述するとともに、それを抽象度の高い理論的なまなざしと組み合わせる文章を書く力を身につける。
４）他の受講者の発表や文章を関心を持って聞き、読み、その内容について踏み込んだ議論をする力を身につける。

[授業計画と内容]

（１）イントロダクション
（２）「きたなさ」と家事と生活という問題系
（３）文化人類学者とは何をする人たちなのか
（４）身体と生活空間のケアにかかわる記録を自分でつけてみる
（５）学術エッセイをレビューする・発表１
（６）学術エッセイをレビューする・発表２
（７）学術エッセイをレビューする・発表３
（８）現地調査入門・準備編
（９）現地調査入門・実践編
（１０）テキストを自分で探してレビューする・書籍編
（１１）テキストを自分で探してレビューする・論文編
（１２）生活に関わる学術エッセイ文章の構想発表・発表１
（１３）生活に関わる学術エッセイ文章の構想発表・発表２

ILASセミナー：身のまわりの生活から探求する文化人類学入門(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー ：身のまわりの生活から探求する文化人類学入門(2)

（１４）エッセイ草稿のピアレビュー
（１５）フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

個別発表：40%
期末レポート（エッセイ）：40%
授業中の議論への参加：20%

[教科書]

酒井朋子・奥田太郎・中村沙絵・福永真弓編 『汚穢のリズム――日常の感覚をめぐるエッセイと対話』（左右社、2024年）

[参考書等]

（参考書）
アラン・コルバン 『においの歴史: 嗅覚と社会的想像力』（1990）ISBN:978-4938661168
メアリ・ダグラス 『汚穢と禁忌』（2009）ISBN:978-4480091864
松村圭一郎・中川理・石井美保 編 『文化人類学の思考法』（2019）ISBN:9784790717331

[授業外学修（予習・復習）等]

自分自身の毎日のふるまいや行いを、とくに身体・空間・モノ・感覚経験（知覚経験）に注意して見つめなおし、気づいたことがあれば頻繁にメモを取ったり写真など記録に撮っておいてください。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]